

# 令和7年産 J A 米コシヒカリ栽培こよみ

- 射水市農業技術者協議会
- 射水市
- 富山県高岡農林振興センター
- 高岡地域農業共済センター
- 全農とやま
- JAいみず野

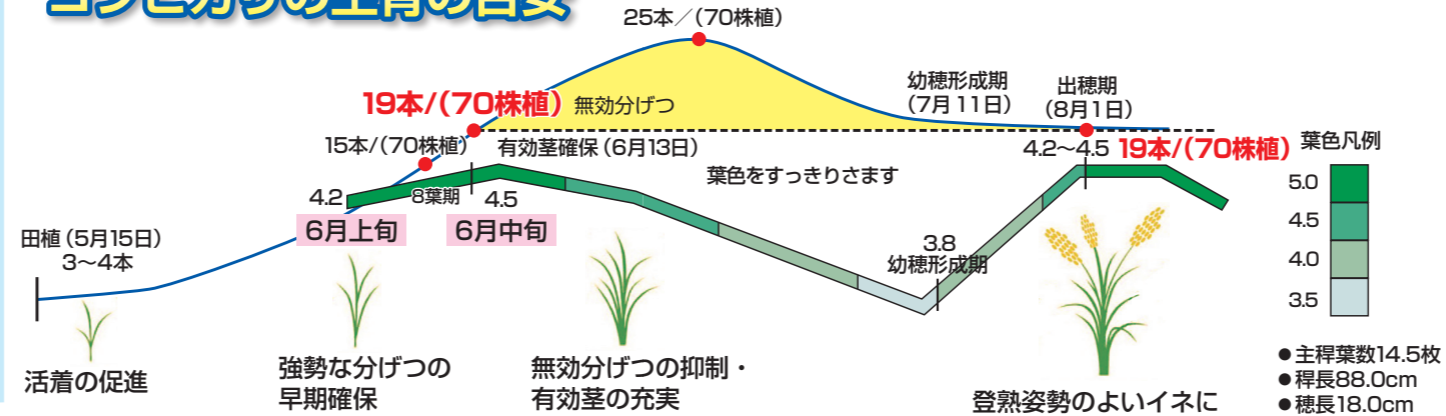
## 収量構成の目安

収量 540kg/10a  
 ||  
 m<sup>2</sup>当穂数 400本  
 ×  
 1穂着粒数 70粒  
 ×  
 千粒重 22.5g  
 ×  
 登熟歩合 87%

## 最重点技術項目

- 5月15日中心の田植え
- 健苗育成
  - ①育苗日数19日程度
  - ②温度管理・換気の徹底
- 70株植・植付深さ3cm
- 初期茎数の早期確保
- 田植後4週間までの中干し
- 出穂後20日間の湛水管理

## コシヒカリの生育の目安



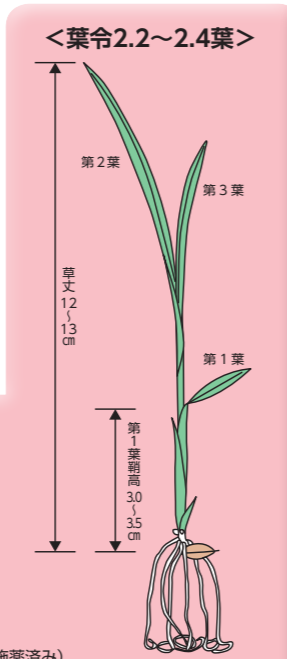
## 消費者に喜ばれる米づくりを!!

- ①品質を重視した米づくり!  
1等米比率95%以上を目指そう!
- ②消費者に信頼される米づくり!  
全量種子更新!  
栽培記録の徹底!  
農薬の安全使用基準の遵守!  
富山県適正農業規範(とやまGAP)の実践!

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月					
生育ステージ		播種期	育苗期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期		
水管理			深水 水深5cm	浅水 水深3cm	深水 (除草剤散布の場合) 幼穂形成期まで足跡深さ3cm以下に固める	中干し	間断かん水	飽水管理 幼穂形成期以降	出穂後20日間は湛水状態 水深3cm	間断かん水	刈取7日前まで		
管理作業	土壌改良資材施用	浸種 (4/17) 播種 (4/25~27)	育苗 育苗期間は18~20日	田植 (5/15)	溝掘り (6/月上旬)	中干し(溝の手直し) (6/12)	一斉草刈り (7/月上旬)	出穂7日前の葉色の確認 (7/25頃)	1回目防除(出穂期) (8/1頃)	2回目防除(穂揃期~傾穂期) (8/8頃)	落水	刈り取り	秋耕・土壌改良資材施用

### 対策1 土づくり ~異常気象に対応~

- ①土壌改良資材の散布  
・土壌に不足する成分を補うため、珪酸質資材100kg/10a施用。
- ②深耕し  
・現状より3cm深く耕し、作土深は15~18cm以上を確保する。
- ③有機物の施用  
・稲わら、籾殻は全量すき込む。  
・緑肥を活用する。(大豆前作のヘアリーベッチ、大麦あとのクロタラリア)
- ④畦づくり・畦塗り  
・水漏れ防止や20日間湛水に備えた畦の高さの確保。



### 対策3 高温登熟の回避 ~5月15日中心の田植え~

- ①田植えは5月15日を中心に行う
- ②直播の導入・拡大  
・田植時期を遅らせたのと同等の効果があります。

### 対策4 初期茎数の早期確保 ~しっかりとした良質な穂につなげる~

- ①栽植株数70株/坪
- ②植付本数は3~4本/株、植付深さは3cm
- ③基準施肥量の遵守

地域	肥効調節		分施(全層)	
	Jコートコシヒカリ2号 (田植同時・側条)	基肥206 (田植前)	基肥206 (田植前)	基肥206 (田植直後)
新潟	28	15	10	
高岡	28~30	20~30	10~15	
富山	28	20~30	10~15	
石川	28~30	20~30	10~15	
福井	28	10~15	10	
山梨	28			
長野	28			
岐阜	28			
愛知	28			
京都	28			
和歌山	28			
奈良	28			
大阪	28			
兵庫	28			
徳島	28			
香川	28			
愛媛	28			
高松	28			
岡山	28			
広島	28			
山口	28			
福岡	28			
佐賀	28			
熊本	28			
大分	28			
鹿児島	28			
沖縄	28			

- ④田植後の適正な水管理の徹底  
・活着促進の早期かん水、日中止水による浅水管理の実施。
- ⑤除草剤の適正使用  
・適期を逃さず、遅れず散布する。  
・田植同時に散布する場合は、軟弱苗を使用せず、薬害軽減のため田植時に田面が硬くなりすぎないように注意する。

### 対策5 適正生育への誘導 ~田植後4週間までの中干し開始~

- ①田植後4週間までの中干し開始(遅れず実施)  
・6月上旬までの軽い田干しと溝掘りの実施  
・適期中干し開始で弱小分けつの抑制と根の伸長促進。  
・溝の連結・手直しによる排水促進。
- ②中干し後の間断かん水の徹底、スムーズな収穫作業に向けた地固め  
(7月11日頃まで足跡深さ3cm程度に固める)
- ③幼穂形成期の葉色は3.8へ誘導

### 対策6 病害虫防除の徹底 ~適期に必ず実施~

- ①大麦あそば場では雑草処理を徹底
- ②一斉草刈りによりカメムシ類の密度を抑制する
- ③2回の本田基本防除を確実に実施  
・1回目 ビームエイトスタークルゾル  
・2回目 ラブサイドK2フロアブル  
・防除の間隔は10日以上あげない。

### 対策7 登熟期間の稲体活力向上 ~生育に応じた追肥と水管理の徹底~

- ①生育状況を確認して的確な追加穂肥を施用(穂揃期葉色4.2~4.5)  
・出穂7日前の葉色が4.0以下(砂壌土4.2以下)と、さめている場合は、出穂3日前までに追肥する(窒素量が0.7~1.0kg/10a)
- ②幼穂形成期から出穂までは飽水管理(足あとに水が残る程度まで減ったら水を足す)
- ③出穂から20日間は湛水管理を徹底(田面が出ないよう水深3cmを保つ)
- ④刈取7日前までの間断かん水の徹底(足あとの水が無くなった水を足す)

### 対策8 適期刈取の徹底 ~胴割粒の発生防止~

①積算温度1000~1050℃、  
 籾黄化率85~90%での適期収穫  
 ※高温の場合は、積算温度950℃、籾黄化率80%で刈り始める。

水管理をおろそかにすると、胴割粒発生

刈取適期 (籾黄化率85~90%)

青点線内の2次枝梗が黄化した時

品質向上のための対策ポイント

◎カントリーの利用を拡大し、米の販売を有利に進めよう!!